

第 74 回 横浜市廃棄物減量化・資源化等推進審議会会議録

日 時	令和元年 7 月 1 日 (月) 14 時 00 分～15 時 30 分
開 催 場 所	マツ・ムラ ホール
出 席 者	<p>(委員)</p> <p>猪口委員、大迫委員、小野田委員、川村委員、佐藤 (輝) 委員、 佐藤 (明) 委員、鈴木委員、西尾委員、畑尻委員、藤倉委員、 宮澤委員、桃井委員、山根委員、吉田委員 以上 14 名</p> <p>(横浜市)</p> <p>資源循環局長、資源循環局副局長、政策調整部長、家庭系対策部長、 家庭系対策部担当部長、事業系対策部長、適正処理計画部長、 適正処理計画部南本牧最終処分場担当部長、総務課長、政策調整課長、 政策調整課担当課長、政策調整課調査等担当課長、3 R 推進課長、 業務課長、街の美化推進課長、一般廃棄物対策課長、 産業廃棄物対策課長、施設課長、処分地管理課長、 処分地管理課南本牧最終処分場担当課長、施設計画課長、他事務局</p>
欠 席 者	沖野委員、野村委員
開 催 形 態	公開 (傍聴者 1 人)
議 題	<p>1 よこはまプラスチック資源循環アクションプログラム素案について</p> <p>2 よこはまプラスチック対策強化月間について</p> <p>3 アフリカのきれいな街プラットフォームについて</p> <p>4 食品ロスの削減の推進に関する法律について</p>
決 定 事 項	—
議 事	別添 発言要旨のとおり
配 付 資 料	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・名簿 ・資料 1-1 よこはまプラスチック資源循環アクションプログラム (素案) 【概要版】 ・資料 1-2 よこはまプラスチック資源循環アクションプログラム (素案) ・資料 2-1 よこはまプラスチック対策強化月間における資源循環局の取組について ・資料 2-2 記者発表資料 (令和元年 5 月 21 日) ・資料 3 アフリカのきれいな街プラットフォームについて ・資料 4 食品ロスの削減の推進に関する法律について ・その他 記者発表資料 (第 73 回審議会以降)

第 74 回 横浜市廃棄物減量化・資源化等推進審議会 発言要旨

議題について、事務局から説明し、ご意見をいただいた。主な意見は次の通り。

議題 1 よこはまプラスチック資源循環アクションプログラム素案について 【資料 1-1、1-2】

(佐藤(輝)委員)

プラスチックの資源循環は、業界団体の取組によって大きく変化すると考えられます。

業界団体の取組が変化した場合は、どのように対応していくのでしょうか。

(事務局)

計画期間の 2030 年まで、計画を適宜見直ししながら取組を進めてまいります。

(藤倉委員)

アクションプログラムを作成したことは素晴らしいですが、36 のアクションは既存の取組を束ねた印象があります。

アクションプログラムの内容について 3 点質問があります。

1 点目は、アクションプログラムで新規の取組は何でしょうか。

2 点目は、アクションプログラムの進ちょく管理はどのように考えているのでしょうか。

3 点目は、横浜市における海洋プラスチックに関するデータはあるのでしょうか。

(事務局)

1 点目につきましては、アクション 1 「プラスチックの 3 R の徹底や代替品の利用促進に向けた店頭や地域のイベント等市民に身近な場所での啓発」やアクション 7 「事業者によるプラスチックの過剰包装の見直しや代替素材への転換等、プラスチックの発生抑制に資する制度の構築に向けた国への働きかけ」、アクション 10 「事業者と連携したプラスチック削減に向けたキャンペーンの実施」などが新たな取組となります。

2 点目につきまして、本プログラムは、プラスチックの状況に関する知見がそろっていない中ですが、市民の皆様にプラスチック問題を知っていただくことを主眼において作成しています。2030 年まで取り組んでいく中で、定量化可能になったものについては数値化していきたいと考えています。

3 点目につきましては、環境創造局で調査をはじめたところでございますが、引き続きアクション 35 「プラスチックによる河川や海における環境汚染等の実態調査」及びアクション 36 「下水処理施設や廃棄物処理施設等からの廃水等に含まれるマイクロプラスチック含有量の実態調査」で実態を把握していきます。

(藤倉委員)

市ができるプラスチック対策として、グリーン購入の推進によるプラスチック代替製品の購入などがありますので、積極的に取り組んでいただきたいです。

(大迫委員)

アクションプログラムと3R夢プラン推進計画との関係性はどのようなものでしょうか。

(事務局)

アクションプログラムはオール横浜の取組を取りまとめたもので、3R夢プラン推進計画とは別の位置づけとなります。各計画の関係性につきましては、次期3R夢プラン推進計画策定のタイミング等に併せて検討していきたいと考えております。

(宮澤委員)

世界的なプラスチック問題については、廃棄物の国際輸出に関するバーゼル条約の記載を加えるべきではないでしょうか。

(事務局)

本市が、主体的に取り扱っているのは一般廃棄物で、一般廃棄物については国内循環をしています。アクションプログラムは本市の主体的な取組を記載しているため、廃棄物の国際輸出に関するバーゼル条約については記載していません。

(大迫委員)

国が進めているレジ袋の有料化に関して、市の考えを教えてください。

(事務局)

レジ袋の有料化については、プラスチックごみの発生抑制につながると考えられます。本市としては、マイバッグの普及など発生抑制の取組を進めていきたいとしています。

(猪口委員)

プラスチック資源循環に係る取組は生活の中でも身近であるため、地域でも進めていきたいです。取組を進めるにあたっては、どちらへ相談すればよいのでしょうか。

(事務局)

プラスチック資源循環の取組にご協力いただき、ありがとうございます。地域での取組に関しましては、各区の地域振興課資源化推進担当にご相談ください。

(宮澤委員)

本素案の問題意識と対策の位置づけが明確でないように思えます。市のプラスチックごみ処理については、「次のような課題があるので、その対策として次のような提案をしています」との論理になるかと思いますが、そのようになっているとは思えません。そのあたりを明確になるように工夫してください。

(川村委員)

プラスチック対策について、「国への要望」や「市民へのお願い」といった取組が多い印象があります。市独自の課題に落としこみ、取組を進めていただき、横浜市が他の都市を牽引する役割となることを期待しています。

(鈴木委員)

私が幼い頃は、プラスチック包装などが今より普及はしておらず、自然の素材を多く使って生活をしてきた印象があります。プラスチック対策は、製品を製造・販売する事業者の取組も大切です。

市独自の取組として、市内のプラスチック使用を禁止するなどの規制が有効だと思います。

(小野田委員)

計画としては長期的な視点と短期的な視点があると思います。

特に短期的な視点、足元の取組がうまく伝わらない印象を受けます。市が課題としている事項を明確にして、それに対する施策を明示してはいかがでしょうか。

(事務局)

本アクションプログラムはプラスチック対策を喫緊の課題ととらえ、取組をいち早く進めていくこととして、策定を進めています。

いただいたご意見は原案の策定や今後の見直しの際の参考とさせていただきます。

(大迫委員)

横浜市の現状の理解から、何を伝えようとしているのかの整理をお願いします。

議題2 よこはまプラスチック対策強化月間について	【資料2-1、2-2】
--------------------------	-------------

(西尾委員)

イオンと連携したキャンペーン成果は、どのように評価する予定でしょうか。

引き続き啓発に取り組むことは重要ですが、評価手法も考えるべきだと思います。

(事務局)

短期的な評価としては、啓発時に配布したアンケートの回収率や内容の精査・検討を行います。

また、キャンペーン前後でのレジ袋使用量の変化から評価する予定です。

長期的な評価としては、ごみと資源が適正に分別されているかを示す「分別協力率」のみでござい
ますが、今後各区局と連携を進めながら評価方法の検討を進めていきたいと考えています。

(藤倉委員)

イオンには、もう一步踏み込んでキャンペーン期間中にワンウェイプラスチックの製品を配布・販売しないような取組をしていただければよかったですと思います。また、代替品として注目されているバイオマスプラスチック原料であるサトウキビを栽培するために森林伐採が起きていることにも考えを巡らせる必要があると思います。

(事務局)

いただいたご意見を真摯に受けとめまして、今後の取組の参考とさせていただきます。

(桃井委員)

市民が行動するには、その問題が自分たちの問題であると捉えられることが大切です。市民が共感できるような広報を進めていただきたいです。

(畑尻委員)

事業者との連携は、とても素晴らしいと思いますので、取組の成果を分かりやすく広報していただきたいです。

また、地域の皆様にご理解をいただくために、分かりやすい情報発信を努めて頂きたいと思います。

(事務局)

地域の皆様には、様々な取組にご協力いただきまして、ありがとうございます。

いただいたご意見を真摯に受けとめまして、今後の情報提供の参考とさせていただきます。

議題3 アフリカのきれいな街プラットフォームについて

【資料3】

(大迫委員)

アフリカの諸都市ではごみ問題が大きな社会問題となっています。

横浜市の先進的な取組として、国際協力の取組を進めていただきたいです。

議題4 食品ロスの削減の推進に関する法律について

【資料4】

(鈴木委員)

市内の家庭や事業者からの食品ロス発生量は、把握できているのでしょうか。

(事務局)

市内の家庭から排出される食品ロス発生量は、2018年度で105,000トンと推計されています。

市内の事業者から排出される食品ロス発生量は、正確には把握できておりません。その把握の方法については今後検討していきたいです。

(佐藤(明)委員)

食品ロスについては、市民への広報を進めていく必要がありますが、まだまだ不十分だと思います。ポスター等を更新して、目新しくすることも有効だと思います。

(事務局)

今後の取組の参考とさせていただきます。